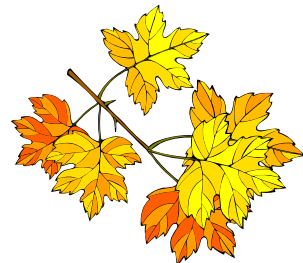


# 不二速報



発行日 2011年11月8日

第5号 2011年度学内教職員研究集会報告号

## 9/28 2011年度学内教研報告 「来るべき東海地震に対する静岡県 および静岡大学の備えと課題について」

9月28日(水)12時半～14時半、2011年度の学内教職員研究集会が行われました。本年度の教研集会は「来るべき東海地震に対する静岡県および静岡大学の備えと課題について」と題して地震防災に焦点をあて開催致しました。東海地震発生が相当程度の確度で予想されている静岡県下に二つのキャンパスを有する静岡大学にとって、地震防災は、今まさに取り組むべき重要な課題であると考えました。講師として、静岡県地震防災センターアドバイザーで静岡大学の特任教授も務めておられる小澤邦雄先生と静岡大学防災総合センター地域連携・ボランティア支援部長の静岡大学理学部教授里村幹夫先生をお招きしご講演いただきました。

まず、はじめに、小澤邦雄先生より、発生が予想されている東海地震において予測される県内の被害状況、静岡県による東海地震対策の現状と課題、東海地震対策に関わる県民等への要望などについてお話しいただきました。静岡県の地震対策は、1976年の駿河湾大地震説の登場とともに始まったとのことですので、既に30年あまりの歴史があります。県が定める被害想定は、国の想定に基づき行われており、現在最も新しいものが2001年の第3次想定で、現在の県の取り組みはこの想定を前提に行われています。しかしながら、3月11日の東日本大震災の発生を受け、国の想定も大きく見直されることとなり、来年、新たな方針が出される予定となっており、県の被害想定とそれに基づく対策も見直されることとなっています。東海地震の30年以内の発生確率は87%、東日本大震災の発生により東海・東南海・南海3連動の可能性も示唆され東日本大震災相当の巨大地震が起こる可能性が現在指摘されています。第3次想定に基づいた対策は進められてきたものの、こうした新たな予想に基づいた対策はまだまだこれからというところだとのことでした。東海地震の想定震源域は、陸域直下を含み、強い地震動と地震直後の大津波の襲来が予想されています。こうした想定をもとに、また来年出される政府方針に基づき、県の対策の見直しと拡充が求められている旨お話しがありました。

次に里村幹夫先生より、静岡大学による東海地震対策の現状と課題についてお話しいただきました。まず、はじめに「地震」は自然現象であり、不可避であるが、「震災」は社会現象であって、



静岡大学教職員組合  
<http://www.jade.dti.ne.jp/~suu/>

静岡：  
〒422-8529  
静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX:  
054(236)0173 (直)  
2790 (内線)

E-mail  
suu@jade.dti.ne.jp

浜松：  
〒432-8561  
浜松市中区城北三丁目 5-1

TEL/FAX:  
053(475)9035 (直)  
3910 (内線)

E-mail  
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp



目次：	
11年度学内教研報告	1～3
全大教全国教研報告	4
組合からのお知らせ	4

「震災」は、事前の策を講じることによって防ぐことが可能なものであり、如何に地震防災対策が重要であるか確認をされました。東海地震説発表後の静岡大学の対応は、耐震診断・耐震工事の開始(1983年から)や、防災委員会下に地震対策検討部会(現在の防災対策委員会)を設置したことに始まりますが、静岡大学は、全国的にいても、早い時期から地震防災対策に取り組んできた大学といえるとのことです。地震発生時の初動マニュアルの作成と周知、地震防災訓練などの実施、学生ボランティアの育成と防災ボランティアネットワークの立ち上げ、地震防災教育の実施、静岡大学防災総合センターの設置と静岡防災コンソーシアムの設立など、今まで静岡大学が取り組んできた、あるいは、今も取り組んでいる対策についてご紹介がありました。現状としては、防災総合センターが教育・研究中心で大学執行部の関心も研究の充実や県との連携に集中していることなどもあり学生の防災活動が不活発化していること、大学の防災訓練と学生が実際に居住する地域の訓練とが連携していないこと、大学としての地域避難民への対応策が未だ不確かであること、食料や寝具などについて各学部レベルで備蓄することとなっているが極めて不十分な状況にあることなど、様々な問題がある旨ご報告がありました。

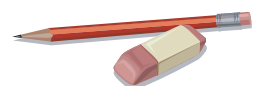
お二人のご講演のあと質疑応答が行われました。小澤先生のご講演には、津波の被害程度とその範囲についての質問などがありましたが、研究が未だ充分ではなく東海・東南海・南海3連動・マグニチュード9の巨大地震下での津波想定高は算出されていない状況にあるとのことでした。東日本大震災の発生をうけての政府の被害想定の見直し結果が来年出されると聞いて、あまりに間延びしている感は否めず、開いた口がふさがらないという思いを我々も抱きましたが、今後の政府や県の対応に関心を持ち続ける必要があると感じました。里村先生のご報告については、巨大地震発生時の2キャンパス間での連携に関する質問や、大学としての取り組みが不十分で危機意識が足りないのではないかとといった意見などが出されました。大学の取り組みが、近年、研究重視に傾いているきらいがあり実践が不足している状況にあること、備蓄整備や地域との連携など、様々な課題があることなどが確認されました。教職員組合としても、大学としての地



震防災対策のあり方を問い、その拡充にむけて、大学側に働き掛けていく必要性を感じました。

その他、参加者のみなさまより貴重なご意見をいただきました。テーマの内容については多くのみなさんより好意的・肯定的なご意見をいただきましたが、例年にくらべ参加者が少なかった点などを問題点としてご指摘いただきました。集中講義期間ということもあり学生の参加がなかった点も残念でした。次年度にむけ、開催時期や広報の方法などについて反省点をひろいあげ集約・検討をすすめたいと思っております。お忙しい中、ご参加いただきました組合員の皆さまに心よりお礼申しあげます。どうもありがとうございました。

さて、最後にふれておきたいことがあります。今回、私どもが、地震防災を教研集会のテーマとした背景には、やはり、本年3月11日に発生した東日本大震災が大きくかかわっていました。発生からはや半年以上が経ちますが、大切な人・ふるさと・仕事を失い深く傷ついた人々の心は決して容易に癒えるものではありませんし、未だ復興の途中にある被災地の方々は、日々、厳しい現実と向き合いながら生活しています。原発震災は、福島県はもちろんのこと、その周辺、そして、さらに広がりをもって私たちの生活に影を落としています。今回、お二人の先生のご講演をお聞きし、静岡大学にとって、地震防災は一つの重要なテーマではありますが、被災地の人々や日本の復興のために大学として果たすべき役割とは何かを問い続け実際にその使命を果たしていくことも重要なテーマとしてあり続けていることもあわせて強く感じた次第です。(教育文化部)





## 参加者の感想



- 組合にしてはタイムリーな話題でなかなかよかったと思う。  
大学の方針で防災用品をそろえるにしても、静岡キャンパス分だけだと思う。  
防災総合センターは、静岡地区?のものと思われること、センター設立当時から変ってしまったこと、こちらでセンターを見直すか、廃止したらどうか考えるようになった。  
津波想定地図など講演の中で見たかった。
- 地震についての研究集会は大変有意義だった。ただ報告の1本として原発問題もとりあげていただきたかった。  
静大の地震対策・防災対策がどのようになっているのか、限界や問題点についてもよくわかりました。組合としても大学側にキャンパスとしての防災対策をきちんとするように働きかける必要があることを強く感じました。
- 大変良い企画だと思いました。  
スライドが重複したり不足していましたが、面白い内容でした(小澤先生)。特に津波関連のお話は勉強になりました。  
里村先生のご講演は今まで何回か聞いています。防災ボランティアの教育の必要性、災害時にどのように動くべきかなど、実際の活動のご紹介は大変興味深かったです。ありがとうございました。
- 東海地震対策について特に本学の現状を知る良い機会となりました。
- このような情報が得られて大変参考になりました。
- タイムリーな企画でよかったですと思います。
- 静岡県内の家庭でできることの詳細を教えてほしかった。
- 私が想定していたものより、さらに大きな災害になることがわかり、防災、減災対策が必要であることがわかった。
- 静岡県民として、また いち大学職員として、どうしていくのが良いのか考えさせられた。

- 地震防災の今までの県の対策、静岡大学の対策について確認できたが、現状での問題点、今後考えるべきこと多々あるので、意見交換、話し合いの場、時間が必要であると思う。3.11 に学ぶことが必要である。
- 小澤先生：話をもっと要約してわかりやすくしてほしい。県の対策だけでなく、個人がすべき対策を話してほしい。  
里村先生：時間切れで聞けず残念です。
- 東日本大震災のニュースは、今も連日報道されているが、身近な職場である本学の姿勢や、地元静岡県の対策といった今日のテーマについては、ほとんど知らなかった。大切な内容であったと思う。大学の執行部は、東海地震がこれだけ注目されている中、もっと重視して取り組むべきだと思った。
- 直下型地震に対する備えが必要だと強く感じた。防災センターの役割、経緯がわかった。  
大学執行部の無策がわかった。
- もっと人が集まってほしい。学生がほとんど来っていない。多くの人に参加できるテーマ、宣伝が必要。
- 現実的なテーマで、時宜にかなった内容でした。ただ参加者が少ないのが残念。
- 前半の1時間で2講演の概要を両方とも行っていたが、後半において詳細や質疑応答等の深い話へ移っていただけるとありがたいと思いました。
- 先週の台風の影響で停電した際に、図書館内に学生や学外の方など利用者が20名ほどおりましたが、午前中には職員の早期退庁勧告が出ていましたが、学生がいる場合には、職員は先に帰れません。学生への緊急時の連絡はどのようにされることになっているか気になりました。  
また体調を悪くする方が出た場合に、保健センターは対応してくれるのかや、学内に取り残された学生をどこに集めるのか、集めないのかなど、いろいろなことを知らないことに不安になり、今日参加しました。
- 小澤先生の発表は、スライドをお話順にまとめていただきたいと思いました。従ってレジュメも発表順ではなく、分かりにくかったです。  
わたしも公務員のため、地震発生後も勤務することが定められていますが、自宅のこと、遠方に出している子どもたちのこと、またその子どもたちもわたしたちのことも心配でありましょし、実際にこの体制が機能するのか、例えば福島大学・東北大学などどうだったのでしょうか。



## 9/11『全大教全国教研』参加しました ～技術職員分科会報告～

9月9日～11日に東京農工大で開催された全大教全国教職員研究集会に、技術職員部の水野隆さんが、参加されました。技術職員分科会の報告を書きいただきました。

20単組より21名が参加した。あらかじめ提出してあったレポートは「群馬大学」「電気通信大学」「静岡大学」からの3件あり、当日持込のものは無かった。

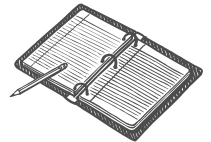
昨年度の分科会においてもレポートの少なさは感じていたが、1件のレポートに対してかなり深く質疑応答ができるということを楽しんでいるのかは意見が分かれるところだろう。

特に電気通信大学においては「処遇・待遇に関する規定はできており、後は発令待ちである」という趣旨の発言があった。ここの動き如何では他の動向に変化をもたらすかも知れない。

他には、現役の技術職員より再雇用の技術職員の人数が多くなった例も報告されたが、特に大きな衝撃を伴ったものは、技術職員の待遇改善に関

し3級から4級への経験年数短縮を要求し実現することを大きな目標として運動をしていたところ、それを行えた機関があり、これは大きな励みとなる場所であった。

全体において、採用が公募になりがちという傾向になることが話題となるのだが、「大学職員等採用試験の合格者からは人数としても間に合わないのではないか」という指摘があり、試験合格者と公募との間に格差が生じている技術職員の現状に照らし合わせれば看過できない問題であり、格差解消にむけて一層の努力をしなければならないことを改めて誓うところであった。



## 第3回団体交渉日程決定！

2011年12月2日(金) 15:00～16:30

ご出席よろしくお願ひいたします。

◆ 第3回代表委員会：11月24日(木) 12:00～ 代表委員の皆様ご出席ください。

## 「組合スキーと温泉の集い」ご案内

—25回目の今年は志賀高原です—

わが国最大級のスキー場で滑り、志賀山温泉に浸かりませんか？

\*日程： 2011年12月22日(木)夜・出発～25日(日)夜・帰着

\*スキー場： 志賀高原スキー場

\*宿泊先： 志賀山温泉「ホテルアスペン志賀」(志賀高原ジャイアントスキー場前)

\*参加費： 大人 30,000円 小学生 20,000円  
(往復バス、2泊4食、リフト券なし)

幼児 5,000円(往復バスのみ)

※ 申し込み用紙またはメールで11月24日(木)までにお申し込み下さい。

※ 参加費は12月12日(月)までに、書記局までお届けください。

